

各種設備

- ◆ 多言語対応 (最大8言語に対応: アイヌ語、日本語、英語、中国語[繁体字・簡体字]、韓国語、ロシア語、タイ語)
- ◆ バリアフリー対応 ◆ 無料Wi-Fi

飲食サービス・お土産など(キャッシュレス対応)

エントランス棟レストラン・フードコート

窓から広がるポロト湖の眺望を楽しみながら食事ができるレストランや、幅広いメニューを取り揃え手軽に楽しんでもいただける飲食スペースをご用意。



エントランス棟ショップ

ウポポイオリジナルグッズやアイヌ工芸品、北海道のお土産品のほか、軽食や日用品を取り揃えております。

◆ 営業時間 9:00～閉園時間



国立アイヌ民族博物館ミュージアムショップ

アイヌ工芸品や博物館オリジナルグッズ、書籍などを取り揃えております。ポロト湖を眺めながらコーヒーも楽しめます。

◆ 営業時間 9:00～閉園時間



開園時間・閉園日

開園時間 9:00～17:00(時期により変動あり)

閉園日 月曜日および年末年始(12月29日～1月3日)

※月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日に閉園 ※臨時の開園日・閉園日あり

入場料(税込)

	一般	団体(20名以上)
大人	1,200円	960円
高校生	600円	480円
中学生以下	無料	無料

※博物館と公園の共通券(博物館の特別展示や一部の体験プログラムを除く)

お問合せ

公益財団法人アイヌ民族文化財団

※国から管理業務委託を受ける団体

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

TEL 0144-82-3914 FAX 0144-82-3685

閉園時は下記ウェブサイトのお問合せフォームをご利用ください。

<https://ainu-upopoy.jp/inquiry/faq/>

ご来場の際は

ウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

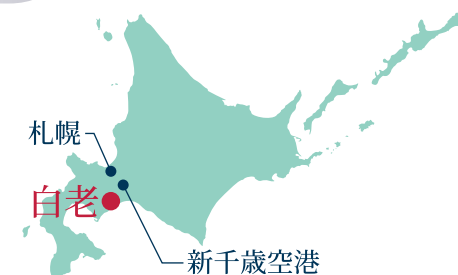


アイヌの世界と
出会う場所。



北海道白老町

HOKKAIDO SHIRAOI



ウポポイ(民族共生象徴空間)

ウポポイ(民族共生象徴空間)とは



私たちの国の貴重な文化でありながら
存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等のための拠点です。

愛称「ウポポイ」について:「ウポポイ」はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」を意味します。

■ウポポイの主な施設

アヌコロ アイヌ イコロマケル 国立アイヌ民族博物館

先住民族アイヌを主題とした
日本初の国立博物館。

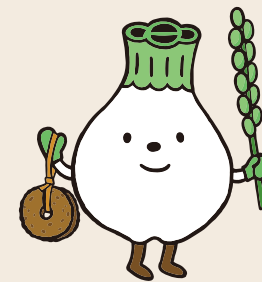
P03・P04

アヌコロ ウアイヌコロ ミンタラ 国立民族共生公園

体験交流ホール、体験学習館、
伝統的コタン、工房等からなる
体験型フィールドミュージアム。

P05・P06

ウポポイPRキャラクター トウレツポん



トウレプ
アイヌ語で「オオウバユリ」
の意。

ポ
アイヌ語で「小さいもの」
というニュアンスを付け加
える語。

オオウバユリについて

北海道、本州の中部以北の林内に自生するユリ科ウ
バユリ属の多年草。アイヌにとってシカやサケなどに
ならぶ貴重な食糧であり、でんぷんをとり、保存食とし
ても蓄えられました。

ウポポイ(民族共生象徴空間) でできること

園内での様々な体験プログラム、
国立アイヌ民族博物館での展示など、
知的好奇心を刺激するコンテンツを
豊富に用意しております。

Point1 触れる

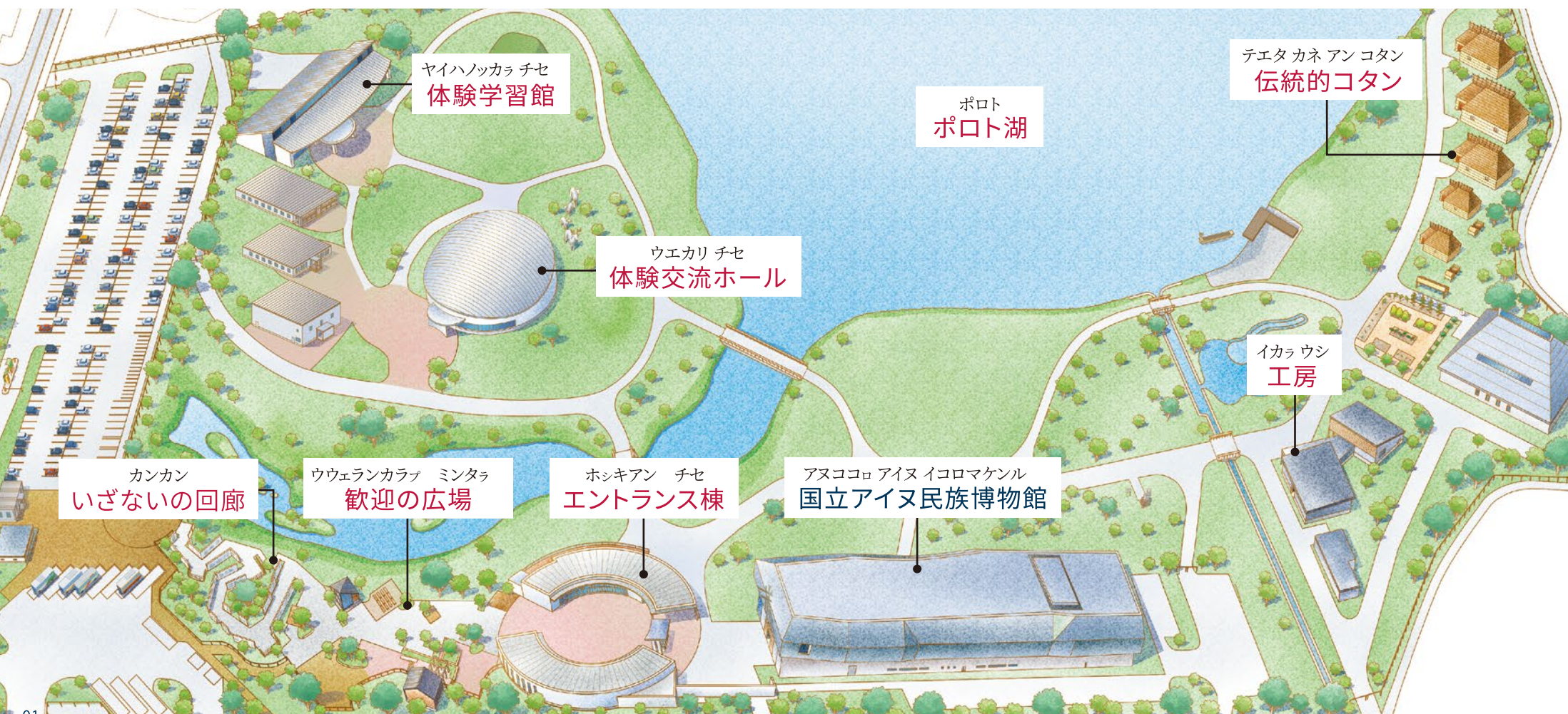
伝統芸能・食・ものづくりなど
アイヌ文化に体験を通じて触れ
ていただけます。

Point2 感じる

言語や信仰など独自性を有する
アイヌ文化の魅力を目、耳、心で
感じていただけます。

Point3 考える

「共生」を考える足掛かりとして、
アイヌに関する歴史や文化などを
多方面に学んでいただけます。



シンヌラッパ ウシ 慰霊施設



アイヌの人々の遺骨等について、関係者の理解及び協力の下で集
約し、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現及びアイヌの人々によ
る受入体制が整うまでの間の適切な管理を行うための施設です。
ポロト湖東側の太平洋を望む高台に、慰霊行事施設、墓所、モニュ
メントなどを整備しています。



先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館

アヌココロ アイヌ イコロマケンル

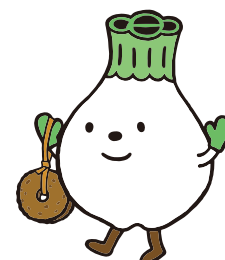
国立アイヌ民族博物館



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

博物館の理念

先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与します。



トウレツポン



私たちのことば イタク

口承文芸をはじめ、アイヌ語のしくみやアイヌ語由来の地名などについて、音声や映像を交えて紹介します。



6つのテーマ 展示

「私たち」アイヌの視点で現代に息づく多様なアイヌ文化を紹介

イタク 私たちのことば

ウパシクマ 私たちの歴史

イノミ 私たちの世界

ネツキ 私たちのしごと

ウレシバ 私たちの暮らし

ウコアツカシ 私たちの交流

私たちの交流 ウコアツカシ

交易品を通して、様々な文化や民族との交流をたどっていくとともに、現在に続く民族共生のありかたを伝えます。



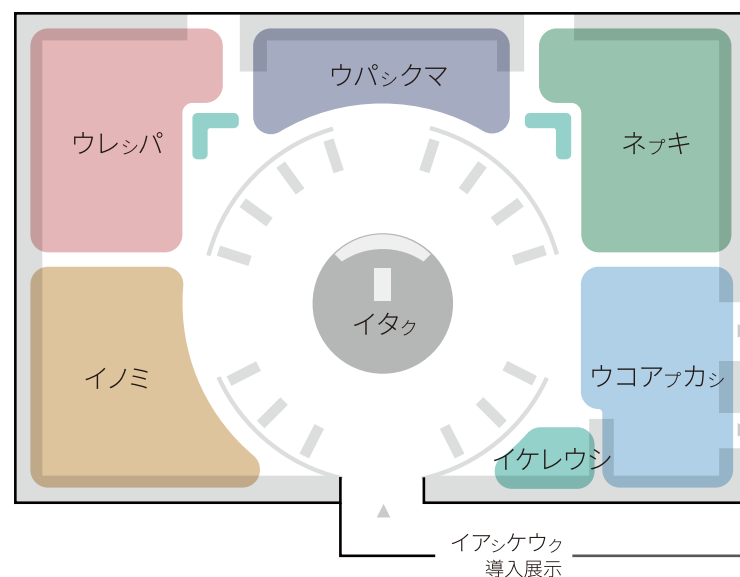
ライブラリ

アイヌ文化や歴史を取り上げた書籍を中心に専門的な学術書や絵本、図鑑などを用意しています。



私たちの世界 イノミ

アイヌの世界観の中心となる、カムイの考えかた、自然観、死生観などについて紹介します。



私たちのしごと ネツキ

伝統的な生業のほか、現代を生きるアイヌの多様な仕事を紹介します。



探究展示 テンパテンパ イケレウシ



ジオラマ、模型、タマサイ(首飾り)や動物の立体パズルなどを通じ、大人も子どももアイヌ文化にふれることができるコーナーです。

※「テンパテンパ」とは、「さわってね」という意味のアイヌ語です。

シアター

映像プログラム「アイヌの歴史と文化」、「世界が注目したアイヌの技」を上映しています。

◆上映時間 約20分 ◆毎日実施



館内及び展示室の解説パネルや表示には、アイヌ語を第一言語として最初に表示しています。音声ガイド機やアプリを通してアイヌ語の解説を音声でも聞くことができます。

館内の解説パネルやサイン、音声ガイドは多言語に対応しています。(最大8言語/アイヌ語・日本語・英語・中国語[繁体字・簡体字]・韓国語・ロシア語・タイ語)

私たちの暮らし ウレシバ

衣食住、人の一生、音楽や舞踊など、アイヌ文化の特色や地域差を紹介します。



私たちの歴史 ウパシクマ

現代に続くアイヌの歴史のひろがりをつらなりを、映像で分かりやすく紹介します。

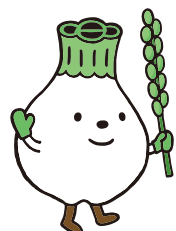




体験型フィールドミュージアム

アヌココロ ウアイヌコロ ミンタラ

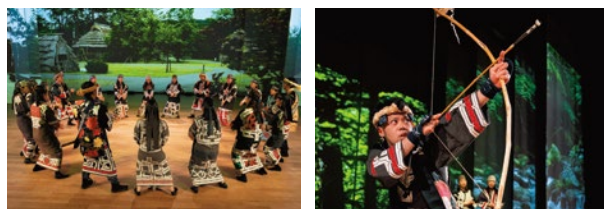
国立民族共生公園



トゥレッポン

ウエカリ チセ
体験交流ホール

ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」や口承文芸のユカラ(英雄叙事詩)など、アイヌの伝統芸能を上演します。



ヤイハノツカラ チセ
体験学習館

伝統料理の食体験や楽器演奏体験など、アイヌの生活文化を直に体験いただける施設です。



テエタカネアンコタン
伝統的コタン

伝統的なアイヌのチセ(家屋)が再現され、生活空間を体感できるエリアです。屋外では、狩猟弓の実演など、アイヌの生活技術をご覧いただけるプログラムを実施します。



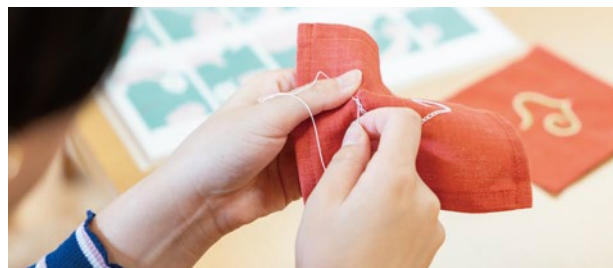
ホンキアン チセ・ウウェランカラップ ミンタラ
エントランス棟・歓迎の広場

アイヌ文化由来の食材や調理法を用いた創作料理や軽食、オリジナルスイーツなど、気軽に食事や喫茶をお楽しみいただける飲食施設が園内に4か所ございます。ショップでは、オリジナルグッズなどご来場の記念やご家族・ご友人へぴったりなお土産をご用意しております。



イカラ ウシ
工房

スタッフによる実演が行われ、長く受け継がれている技術を間近にご覧いただけます。木彫や刺繍の体験もすることができます。



アイヌとは

アイヌとは、アイヌ語で「人間」を指す言葉です。

人間の生活を支える自然などのカムイ(いわゆる神)に対して私たちは人間であるという意味です。アイヌは、独自の言語、文化、歴史を有する先住民族です。かつては、本州北部、北海道、樺太、千島列島に住み、狩猟、漁撈、採集、農耕、周辺民族との交易を生業として、各地にコタンというコミュニティを形成し暮らしていました。衣服や道具、祭具に見る美しいアイヌ文様、ユカラに代表される口承文芸、カムイとの関わりから敬い、感謝し、時に威嚇するカムイノミ(祈り)、カムイとともに楽しむ歌や踊りなどの世界観は、アイデンティティーそのものであり、日本の多様性を表すものです。しかしながら、日本の近代化の過程で、母語であるアイヌ語や民族の基層をなす文化の継承が危機に瀕していることから、その復興が急務となっています。

アイヌ語

アイヌ語は、単語や文法の面で、周囲の言語とは異なるアイヌ独自の言葉です。

アイヌ語のなかでも身近なものとしては、札幌など、アイヌ語由来の地名があります。

アイヌ語由来の地名は北海道をはじめ、樺太、千島、それに東北地方にもあります。

たとえば、登別の「別」はアイヌ語の「ペッ」(川)が由来です。また稚内の「内」はアイヌ語で「沢」を意味する「ナイ」が由来です。このことから、こうした地方には昔からアイヌがくらしてきたことがわかります。

このほかにアイヌ語から日本語に定着した言葉として、魚の「シシャモ」や海に住む動物の「ラッコ」それに寒冷地に住む動物の「トナカイ」などがあります。

ウポポイ開設の経緯

国連では、世界の先住民族が失った権利をどのように回復するかについて長年、検討が進められてきました。

2007年9月、国連総会において民族の自決権や土地・資源の権利、知的財産権など各国が達成すべき基準が明記された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択されました。

2008.06

国会において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択されました。

この決議を受けて政府は同年の7月「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」を立ち上げ、報告書が提出されました。

2009.07

政府は、有識者懇談会における報告書の提言を受けて、アイヌの人たちの意見を政策推進等に反映するための協議の場所として同年の12月に「アイヌ政策推進会議」を設置しました。

この推進会議の下には、作業部会が設置され、アイヌ政策を体现する扇の要である「民族共生の象徴となる空間」の具体化等について検討が行われ、これを受けて政府による施策の準備が進められました。

2014.06

アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針が閣議決定され、「民族共生の象徴となる空間」が白老町ポロト湖畔周辺地域に設置されることとなりました。

2018.12

12月11日には愛称「ウポポイ」が投票の結果で、ロゴマークとあわせて決定しました。

2019.04

「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が公布され、同年5月24日に施行されました。

この法律に基づきアイヌ文化の振興及び民族共生象徴空間の管理運営を行う法人として公益財団法人アイヌ民族文化財団が指定されました。

2020.07

7月12日にはウポポイ(民族共生象徴空間)が、わが国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興・発展の拠点として、また、先住民族の尊厳を尊重し、差別の無い多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として開業しました。

アクセス

札幌から約1時間、
新千歳空港から約40分の好アクセス。

◆ 空路 ✈️

東京▶新千歳空港 約1時間40分 大阪▶新千歳空港 約2時間

札幌	札幌北IC	高速道路利用で約65分	新千歳空港	新千歳空港IC	高速道路利用で約40分
	JR札幌駅	特急列車利用で約65分		JR新千歳空港駅	快速・特急列車利用で約40分
登別	一般国道36号	一般道路利用で約40分 (登別温泉からウポポイまでの目安)	苫小牧	一般国道36号	一般道路利用で約30分 (苫小牧市街からウポポイまでの目安)
	JR登別駅	特急列車利用で約12分		JR苫小牧駅	特急列車利用で約15分
室蘭	登別室蘭IC	高速道路利用で約45分	函館	大沼公園IC	高速道路利用で約2時間50分
	JR東室蘭駅	特急列車利用で約30分		JR函館駅	特急列車利用で約3時間

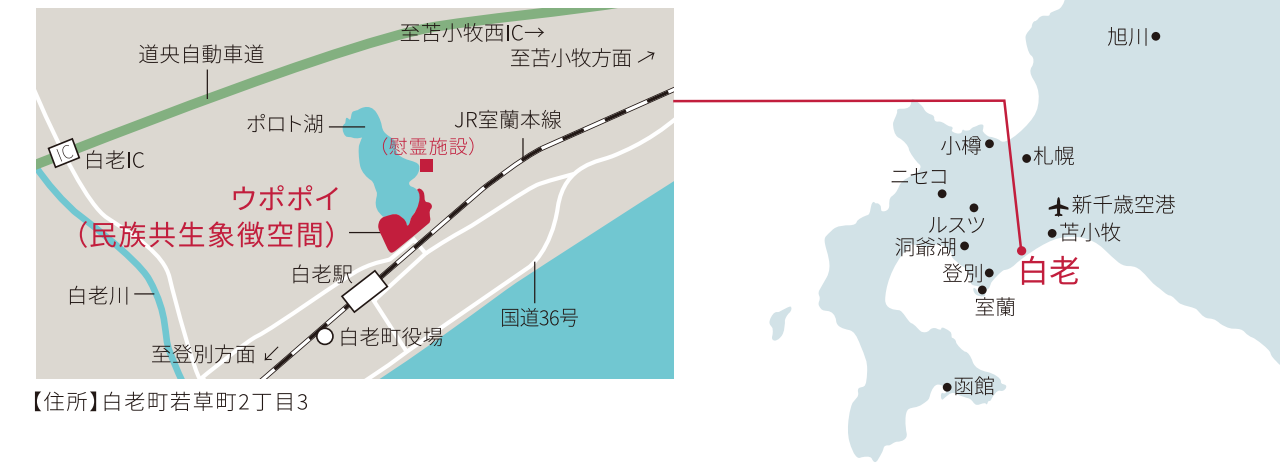
◆ 白老町内からのアクセス

白老駅から徒歩約10分
白老インターから車で約10分

JR白老駅に特急列車(北斗、すずらん)
1日31本停車

◆ 駐車場

【園内】一般駐車場246台(有料)
【園外】一般駐車場311台(有料)
大型駐車場 88台(有料)



※上記時間は目安です。乗換時間は含みません。